

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2019年第20週 2019年5月13日（月）～2019年5月19日（日）

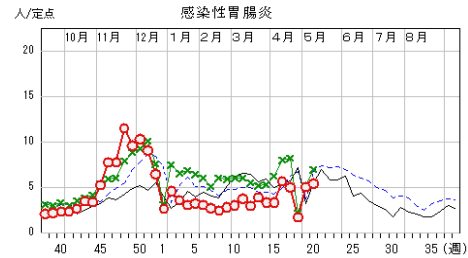
定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）感染性胃腸炎

第20週の報告数は237人で、前週より14人多く、定点当たりの報告数は5.39であった。

年齢別では、1歳（57人）、2歳（37人）、4歳（28人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（10.67）、佐世保市保健所（10.00）、県央保健所（7.67）であった。

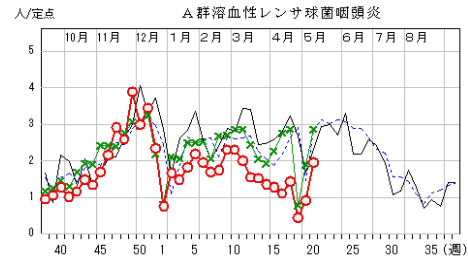


（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第20週の報告数は86人で、前週より46人多く、定点当たりの報告数は1.95であった。

年齢別では、4歳（13人）、10～14歳（11人）、20歳以上（11人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、五島保健所（3.75）、長崎市保健所（2.50）、県央保健所（2.50）であった。

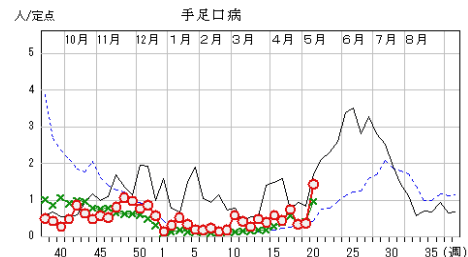


（3）手足口病

第20週の報告数は63人で、前週より47人多く、定点当たりの報告数は1.43であった。

年齢別では、1歳（34人）、2歳（14人）、1歳未満（9人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（4.17）、県南保健所（2.40）、五島保健所（1.50）であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
× 当年(全国) - - 前年(全国)

上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第20週の報告数は、前週より14人増加して237人となり、定点当たりの報告数は5.39でした。地区別にみると、壱岐地区以外から報告があがっており、県北地区（10.67）、佐世保地区（10.00）、県央地区（7.67）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況で、今後の動向に注意が必要です。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第20週の報告数は、前週より46人増加して86人となり、定点当たりの報告数は1.95でした。地区別にみると、壱岐地区、上五島地区以外から報告があがっており、五島地区（3.75）、長崎地区（2.50）、県央地区（2.50）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況で、今後の動向に注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【手足口病】

第20週の報告数は、前週より47人増加して63人となり、定点当たりの報告数は1.43でした。地区別にみると、上五島地区、対馬地区以外から報告があがっており、県央地区（4.17）、県南地区（2.40）、五島地区（1.50）の定点当たり報告数は、他の地区より多い状況で、今後の動向に注意が必要です。

手足口病は、例年5月頃から報告数が増加し、夏場にピークを迎えます。本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。急性期に最もウイルスの排泄量が多く、回復後も2週間から4週間程度は、便中にウイルスが排泄されるため感染源となりえますので、保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気をつけてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、保護者は早めに医療機関を受診させてあげるよう心掛けましょう。

トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発になります。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期ですので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県医療政策課 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」

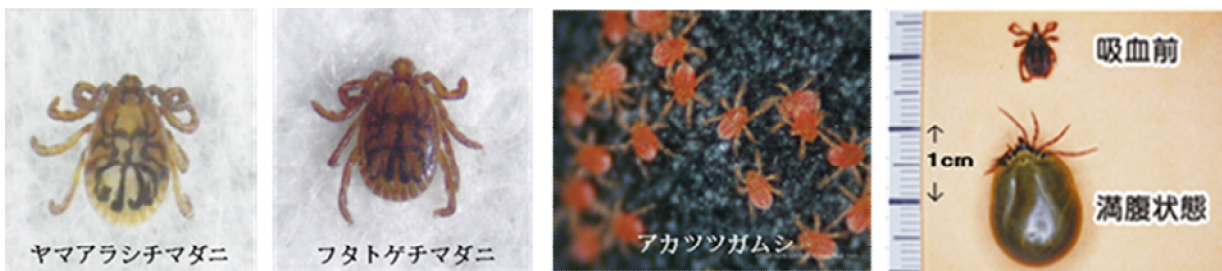
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>

（参考）国立感染症研究所 昆虫医科学部ホームページ「マダニ対策、今できること」

<http://www.niid.go.jp/niid/images/ent/PDF/170511madanitaisaku.pdf>

（参考）厚生労働省 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html



トピックス：風しんに注意しましょう

風しんは、せきやくしゃみなどの飛沫から感染し、通常は発疹や発熱が起こりますが軽微な症状で経過し重篤化することはほとんどありません。しかしながら妊娠初期に感染すると、胎盤を経て胎児にも感染し、先天性の心疾患や難聴、白内障など（先天性風しん症候群：CRS）を引き起こす危険性がある恐ろしい感染症でもあります。

風しんやCRSは予防接種により予防可能ですが、妊婦へのワクチン接種は禁忌であるため、妊婦または妊娠する可能性の高い方に伝播させることのないよう、周囲の身近な人は医師と十分相談の上、抗体検査やワクチン接種を実施することが重要です。

本県では、2019年に11例の風しんの発生届の報告があっております。また、長崎県医療政策課から風しんについての注意喚起が発表されています。関東地方を中心に全国では風しんの報告数が例年と比べて大幅に増加しております。30代から50代の男性においては、風しんの抗体価が低い方が2割程度存在していることが分かっています。風しんワクチンの接種対象が1994年まで中学生の女子に限られたため、この年齢層には免疫がない男性が多数存在していることが今回の流行に大きく影響しているようです。今後の風しんの動向に十分注意しましょう。

（参考）厚生労働省 風しんについて（外部のページに移動します。）
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

（参考）長崎県医療政策課：風しんに注意してください。
<http://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/371619/>

長崎県における2019年の風しん届出状況

	管轄保健所	患者	診断年月日
1	長崎市保健所	20歳代・女性	2019.1.10
2	長崎市保健所	40歳代・男性	2019.1.17
3	西彼保健所	40歳代・男性	2019.1.30
4	長崎市保健所	40歳代・男性	2019.2.9
5	県北保健所	30歳代・男性	2019.2.28
6	県北保健所	20歳代・男性	2019.3.11
7	県北保健所	50歳代・男性	2019.3.13
8	県北保健所	60歳代・男性	2019.3.14
9	県北保健所	50歳代・女性	2019.3.14
10	県北保健所	40歳代・男性	2019.4.25
11	県北保健所	60歳代・男性	2019.5.8

